

チャランケ通信 第 573 号 2025 年 9 月 8 日

石破総理の辞任へ、過去 1 年衆参選挙での敗北の責任が問われる

7 日午後、自民党石破総裁が辞任することを決断した。8 日には自民党総裁選挙前倒しの意思確認が実施されるのを前に、党内からの辞任要求に抗する事が出来なかったようだ。既に森山幹事長を始め党役員の辞任も相次ぎ、まさに「四面楚歌」といえる党内状態にあったわけで、ここまでよく耐え続けてきたというのが率直なところかもしれない。

思えば昨年秋に自民党総裁に選出され 10 月には内閣総理大臣となり、少数与党で国会を乗り切ったわけだが、総理就任直後の総選挙で敗北し、都議会議員選挙、参議院選挙と重要な選挙で 3 連敗するなど、その責任が問われることはリーダーとして当然のことだろう。

もっとも石破氏は、毎日新聞が 8 月末に実施した世論調査「次の首相」で主要政治家の中で第 1 位になるなど、人気の高い政治家だったことは間違いない。その背景には、与党内で野党的存在の時代に「政治家としての責任」を強く主張するなど絶えず「正論」を吐いてきたわけで、今回の辞任は遅きに失したとはいえ当然のことと受け止められている。

小泉進次郎氏の動き、政権の帰趨を決めるキーパーソンなのか

この間の経過の中で、注目すべきは 6 日の夜、石破首相と菅副総理、小泉進次郎農水大臣が総理に自発的に退陣を求めたとされる。特に小泉大臣は 2 時間近く首相公邸に残って説得したとのこと、菅総理が退陣する時も小泉氏は同じ行動をとってきたわけで、政権の運営のカギを握るキーパーソンとしてその存在価値を高めつつあることも印象付けられる。

さて、それでは次の自民党総裁は誰になるのだろうか。当然、高市早苗氏は石破氏と争ってきたわけで次の総理・総裁を引き続き虎視眈々と狙っている。さらに、かつて総裁選挙に 9 名の立候補者が出たこともあるわけで、再び次の総理・総裁を目指してかなり多くの政治家が名乗りを上げてくることも予想される。秋の臨時国会は 10 月初旬には始まるものと考えられていたのだが、自民党の総裁選挙が入ってくるだけに相当ズレこみ 10 月末にまで伸びるかもしれない。

連立の組み換えにまで行くのか、次の与党体制はどうなる

考えてみたいのは、自民党と公明党で与党を形成しているわけだが、衆参共

に過半数割れをしているのが現実だ。引き続き自公だけで政権を運営していくのかどうか、野党側でも石破氏以外なら政権に入っても良いと「維新」は考えているようだし、これから誰が自民党総裁になるのかによって政界の与野党は流動化していくのかもしれない。

それにしても、この間の日本の政治は総理大臣が 1 年足らずで交代することが多く、安定した政治が実現できていない。日本の政治が直面する課題は、少子高齢化や経済活力の低下など難問が大きく立ちはだかっているわけだが、それをどう解決していけるのか、突破できるだけの政治力こそが問われ続けている。これから誰がポスト石破になるのかは未確定だが、なんとか日本の抱える難問を解決していくために全力を上げて欲しいものだ。